

9 子ども会議サミット「サテライト子ども☆ミライ会議」の様子

令和6年(2024年)2月10日(土)、11日(日)に『「地方自治と子ども施策」全国自治体シンポジウム 2023 小金井』(主催:「地方自治と子ども施策」全国自治体シンポジウム 2023 小金井実行委員会、小金井市 後援:総務省、こども家庭庁、文部科学省、東京都)が開催され、本市の事例を紹介しました。

また、東京都豊島区、神奈川県川崎市、長野県松本市の子ども会議に参加をしている子どもの代表が集まり、「子ども会議サミット」が開催されました。

本市から「サテライト子ども☆ミライ会議」として、中学1年生が代表として参加し、「子ども☆ミライ会議」の事例紹介と、子どもが考える「子ども会議のあり方について」意見交換をしました。

代表の本市の子どもは、「私は、小さい頃から複数のセンターを利用し、中学生になってからは以前ほどセンターは行かなくなったが、職員の方とは仲が良く、センターが主催の『子ども☆ミライ会議』のチラシを見て、参加することを決めました。このように、居場所における子どもの意見聴取を重要と考え、ありのままの安心できる居場所では意見が発しやすいことや、受け止めてくれる職員が『子ども☆ミライ会議』に関わっていることが、他自治体にはない特徴でもあります。」と発言しました。

そして、異年齢であり多様な考えの子どもが集まる『子ども☆ミライ会議』と学校における意見表明について、比較をしていました。「何のために発表するのか」、「誰が発表を聴くのか」、「グループのメンバーについて」、「指導する人は誰なのか」、「意見をまとめるためにどうするか」、「意見が衝突してケンカにならないか」、「意見表明する機会として、学校と『子ども☆ミライ会議』とでは、どちらが楽しいか」という視点について発言していました。

さらに、「会議に参加したことで、自分が成長したと感じることもあります。具体的には、自分から進んで意見を出せるようになったことです。学校では、よくしゃべる人がずっと意見を出していて、あまり意見を出す気になれない時があるのですが、『子ども☆ミライ会議』ではそのような人がいないし、ファシリテーターが進行してくださるので、みんなが意見を進んで出せていると思います。」と自分の成長したと感じることについて発言していました。

最後に、「市長や教育長と直接話ができる機会はめったにないので、グループが市長・教育長に提言した後、委員一人ひとりに市長・教育長から質疑応答があったら、より面白くなると思います。また、事前の話合いの時間や回数が増えれば、もっと意見が深まると思います。」と今後の「子ども☆ミライ会議」についての要望を発言していました。

10 「子ども☆ミライ会議」の周知について

(自治体視察、全国大会での基調講演、セミナーでの事例報告、テレビ報道)

「子ども☆ミライ会議」で発言された意見、提案内容、事前の取り組み、プロセスについて周知を行っています。

名称や内容を改善しながら、20年以上に渡り、継続的に子どもがまちづくりについて考え、発言する場を創出し、毎年度、子どもと市民への報告並びに周知を目的として、報告書を作成しています。

こども家庭庁は、「こどもまんなか社会」の実現を掲げ、子どもの意見を聴き、その意見を政策に反映することが大切だとしており、子どもの意見に対して、フィードバックをしていく重要性を示しています。

子どもの意見に対して、実現できるできないのジャッジをするのではなく、どのようにしたら意見を実現できるかを子どもと大人で考えていくことが重要です。

報告書では、子どもの意見に対して民間団体や地域の協力で実現できた事例も紹介しています。

「子ども☆ミライ会議」の取り組みは、報告書を通じて評価を頂き、「こども政策決定過程におけるこどもの意見反映プロセスの在り方に関する検討委員会」の調査研究結果である『こども政策決定過程におけるこどもの意見反映プロセスの在り方に関する調査研究』のなかで、国内の先進事例として紹介されました。

また、以下の通り、全国の他自治体に対して事例発表や視察において、本市の取り組みを広く周知することができました。

(1) 自治体の視察

埼玉県入間市、神奈川県相模原市、愛知県幸田町

(2) 「第18回全国児童館・児童クラブ大会」の基調講演

令和5年(2023年)11月25日(土)に、『18回全国児童館・児童クラブ大会「今までもこれからも こども Do まんなか」』(主催:一般財団法人児童健全育成推進財団 後援:こども家庭庁)が開催され、基調講演で本市の職員が登壇し、本市の事例を紹介しました。

(3) 「第9回全国こどもの健全育成リーダー養成セミナー」の事例報告

令和6年(2024年)2月2日(金)に、「第9回全国こどもの健全育成リーダー養成セミナー」主催:こども家庭庁)が開催され、本市の事例を紹介しました。

(4) 『「地方自治と子ども施策」全国自治体シンポジウム 2023 小金井』の事例報告

令和6年(2024年)2月10日(土)、11日(日)に『「地方自治と子ども施策」全国自治体シンポジウム 2023 小金井』(主催:「地方自治と子ども施策」全国自治体シンポジウム 2023 小金井実行委員会、小金井市 後援:総務省、こども家庭庁、文部科学省、東京都)が開催され、本市の事例を紹介しました。

(5) テレビ取材と放映

(ア) テレビ朝日「東京サイト」

子育てしやすいまちナンバーワンの要素としての「子ども☆ミライ会議」の実施について取材を受けました。

(イ) NHK クローズアップ現代「ヒントは昭和の長屋文化!?!」

令和5年(2023年)5月9日(火)に「家でも学校でもない第3の居場所」と題して、テレビ報道されました。令和3年度(2021年度)「子ども☆ミライ会議」で居場所としての駄菓子屋の設置について提案した子どもが取材を受けました。子どもの提案に興味を持った市民団体が、懇談会を開いて、子どもの声を参考に駄菓子屋「yottette」を設置し運営しています。子どもの提案が地域との協働によって実現したことが放映されました。

(6) テレビの密着取材と放映

令和5年(2023年)11月11日(土)日本テレビ news everyで、『【密着】東京・八王子市のまちづくり、こどもたちが提言「こども基本法」』と題し、「子ども☆ミライ会議」について放映していただきました。「子ども☆ミライ会議」の事前のワークショップや子どもが各自で取り組む事前学習の様子と公共施設への訪問や行政職員への問い合せなど、子どもが意見を述べるまでのプロセスが放映されました。

また、「意見表明によって、自信や勇気が育まれただけでなく、子ども自身にまちの文化を守り、未来を担うひとりなんだという自覚が芽生えたようです」と「子ども☆ミライ会議」における子どもの気持ちの変化についても放映されました。

11 子どもの意見のフィードバックについて（職業体験、図書館の取り組み）

子どもの意見については、分かりやすいフィードバックが大切です。意見がどのように検討され、反映されたか、反映されなかった場合にはその理由等をわかりやすく、伝えることが必要です。

今まで「子ども☆ミライ会議」では、市役所関係部署の協力や民間団体の方の協力を得ながら、意見の反映や実現に取り組んでいます。

（１）「親子職業体験バスツアー」の実施

令和4年度（2022年度）に開催された「子ども☆ミライ会議」において、「市内で体験や交流の機会として、会社の見学や子どもの体験機会を充実してほしい」と子どもの意見発表がありました。

令和5年（2023年）12月17日（日）に、子育て応援企業や市の施設の見学をする「親子職業体験バスツアー」の実施が実現しました。

子育て応援企業（イトーヨーカドー南大沢店）や館クリーンセンター、八王子市中央図書館を訪問し、仕事内容の見学、普段は入ることのできない倉庫や設備を見学しました。



（２）「桑都 八王子コーナー」の設置と「こどもレファレンスシート」の作成・配布

令和5年（2023年）11月5日（日）に日本遺産フェスティバルの会場内で開催された「子ども☆ミライ会議」において、「日本遺産を知ってもらおう方法」と題した子どもの意見発表がありました。

図書館での蔵書の見つけやすさや子どもにもわかりやすい資料の充実が求められました。

子どもたちからの貴重な提言に対しては、教育長からも迅速に対応すると伝えられ、令和5年（2023年）12月20日（水）に「桑都 八王子コーナー」の設置と「こどもレファレンスシート」の作成・配布をすることが、八王子市図書館ホームページで紹介されました。



12 子ども企画委員の意見

今年度は、11月4日(土)・5日(日)に東京たま未来メッセで開催される「日本遺産フェスティバル in 桑都・八王子」に合わせ、全体のテーマを「私たちができる日本遺産の魅力を活かしたまちづくり」として、グループで子ども企画委員が検討したいテーマを決め、意見をまとめていきました。

(1) 子ども企画委員の意見概要一覧

	【意見テーマ】 意見概要
1	【日本遺産について知ってもらう方法】 <ul style="list-style-type: none"> ・図書館にわかりやすいマンガや絵本などを設置すること ・題名がわかりやすく、クイズなど興味を持つ情報の入った目立つポスターを掲示すること ・はちやくのような無料の博物館を増設すること ・車人形などの体験学習の機会を増やすこと ・日本遺産を学ぶ学習の機会を増やすこと
2	【昔から学ぶ新しい桑都・八王子～日本遺産を知る機会を増やすこと～】 <ul style="list-style-type: none"> ・学校の授業で日本遺産について学ぶこと ・織物体験や染め物体験などの体験型学習のプログラムを組むこと ・パンフレットや動画などを作成しPRをすること
3	【八王子の子ども達に八王子の魅力を知ってもらい、未来に繋げる方法】 <ul style="list-style-type: none"> ・子ども向けのイベントを開催すること ・八王子城跡など観光客が少ない場所や観光バスの整備をすること ・学校で八王子のことを調べる機会を増やすこと ・八王子の魅力がわかるパンフレットや本を作ること
4	【外国人にアピールしたい！高尾山の魅力】 <ul style="list-style-type: none"> ・高尾山の魅力を味わえる、体験型のイベントやツアーなどを企画すること ・私達のような学生が体験型のイベントのガイドをすること ・SNSを使って海外に発信すること
5	【桑都物語のストーリーがどのように決まったか】 <ul style="list-style-type: none"> ・日本遺産を決める時に、子どもも関わること ・学校で日本遺産について学ぶ機会を設けること ・自分の住んでいる地域の「遺産」を「地域遺産」として八王子が独自で認定するしくみをつくること

(2) 子ども企画委員の発表意見（*子ども企画委員作成の発表原稿のまま）

第1グループ

【日本遺産について知ってもらう方法】

私たちのグループは「日本遺産について知ってもらう方法」というテーマについて意見をまとめました。

私たちが、このテーマを選んだきっかけは、学校でとったアンケートで、小学6年生84人に「日本遺産とは何か」と聞いてみた結果、日本遺産について正しく知っている人は、よく知らない人の約半分でした。他にも、日本遺産について、調べるために、中央図書館を訪ねました。

しかし、中央図書館で見つけた八王子の日本遺産がのっている本が1冊しかありませんでした。他にも八王子の歴史の本には、文字がびっしり書かれていて、子どもが読みにくいようでした。そのため、もっとたくさんの人たちに日本遺産について知ってもらいたいと思いました。

次に、具体的例を説明します。私たちが、考えたみんなに八王子の日本遺産について知ってもらう方法としては、1つ目は、図書館に分かりやすい本を置くというものです。例えば、分かりやすくする工夫としては、マンガや絵本やさし絵のあるものを図書館に置くといいと思います。

2つ目は、ポスターを作って、それを目立つ場所に貼るというものです。

小さい子どもにも興味をもってもらえるようにするために、例えば、クイズを入れてみたり、絵を入れてカラフルにしてみたり、題名を面白くしたりすれば、ついつい見たくなくなってしまうようなポスターを作ることができると思います。



私たちも実際にポスターを作ってみました。工夫としてはすごろく風にしてみました。（子どもたちが製作したポスターを紹介）他にも日本遺産について知ってもらう方法としては、はちやくのような無料ではとってもいい博物館を増やしたり、車人形などを体験することができる機会を増やしたり授業でもより詳しく八王子の日本遺産について学んだりすることがいい方法だと思います。

最後にまとめです。私たちのテーマは、「日本遺産について知ってもらえるようにする方法を考える」というものです。私たちは、ポスターなどの解決策を考えました。私たちはこの経験をいかして周りの人に日本遺産について伝えていきたいです。

これで1グループの発表を終わります。

第2グループ

【昔から学ぶ新しい桑都・八王子～日本遺産を知る機会を増やすこと～】

私たちのグループは「昔から学ぶ新しい桑都・八王子」というテーマについて意見をまとめました。私たちの意見は、みんなでもっと八王子の日本遺産を知る機会を増やすことです。

まずは、学校の授業で日本遺産について詳しく学ぶことについてです。今私たちの学校では八王子の歴史や産業や日本遺産のことについて学んでいますが、知らないことがたくさんあることがわかりました。

みんなで八王子の日本遺産について詳しく調べると、高尾山や八王子城の古くからの歴史や、絹織物の素晴らしさなど、もっとみんなに知ってもらいたいと思うようになりました。

そこで、今回私たちが調査でお世話になった、桑都日本遺産センターの展示も参考にしながら、実際に織物を織る機械を動かしてみたり、染め物体験をしたりするなど、体験型学習のプログラムを組むことが必要だと思います。実際に体験することで記憶に残りやすく、より良い学習になると思います。(市内の小学校で取り組んだ体験活動のスライドを紹介)

次に、より多くの人に日本遺産について知ってもらえる機会をつくることについてです。

八王子の人たちだけが日本遺産を知っているだけではもったいないと思います。既に高尾山は日本や世界に知れわたる有名な観光地となりましたが、日本遺産に登録されていることや、登録された理由などはあまり知られていないと思います。

そこで、私たちは、パンフレットや動画などにして、よりPRすることを提案します。(広報の里山体験のスライドを紹介)

特に動画などは、様々な長さに調整して、その場にあった形で宣伝できることや、外国の方にも伝わりやすいことなどから非常に良いのではと考えます。

今までは普通に訪れていた高尾山などに実は知らないストーリーが隠れていたと知ったら、きっと、観光客の人たちは、もっと八王子に興味をもってくれるのではないのでしょうか。

これで2グループの発表を終わります。



第3グループ

【八王子の子ども達に八王子の魅力を知ってもらい、未来に繋げる方法】

私たちのグループは「八王子の子ども達に八王子の魅力を知ってもらい、未来に繋げる方法」というテーマについて意見をまとめました。

八王子の子どもたちに八王子のことを知ってもらって、もっと好きになってもらいたいと思ったので、方法を4つ考えました。

1つ目は、子ども向けのイベントを開催することです。

以前、聖蹟桜ヶ丘のショッピングモールで開催されていた、恐竜展に行ったことがあります、そこで行われていた、砂場に埋まった化石を探すというゲームに参加しました。

イベントを経験をしたことで恐竜に興味を持ちましたので、八王子でもこのようなイベントを開催すると、子どもたちに楽しみながら学んでもらうことができるのではないかと思います。(恐竜展のスライドを紹介)

2つ目は、八王子城跡などの日本遺産だけど観光客が少ない場所の整備をしたり、観光バスを用意したりすることです。

こちらは八王子市内の観光地と観光客数です。(観光客数のスライドを紹介)高尾山や東京富士美術館など設備が整っているところは観光客が多いですが、八王子城跡などは観光客が少なめです。これは観光客が行きやすいような設備がきちんと整っていないからだと思います。もっと八王子の日本遺産の自然やお城などを壊さないように整備することが必要だと思います。

3つ目は学校で八王子のことを調べる機会を増やすことです。

私たちは、八王子のことを調べるまで、あまり八王子のことを知らなかったです。ですから、学校で八王子のことを調べる機会を増やすと、八王子の魅力を知れるので八王子のことを好きになれると思います。

4つ目は、八王子の魅力がわかるパンフレットや本を作ることです。

本やパンフレットは学校や図書館など目につきやすい場所に置き、子どもたちにも目につきやすいような内容にすると、非常に良いと思います。

これで3グループの発表を終わります。

第4グループ

【外国人にアピールしたい！高尾山の魅力】

私たちのグループは「外国人にアピールしたい！高尾山の魅力」というテーマについて意見をまとめました。

私たちは、提案します。コロナ禍が終わり、2023年7月には232万人もの外国人旅行者が日本を訪れています。数ある外国人旅行者の観光スポットの中でも、富士山は人気があります。

富士山と並んでミシュランの三つ星に指定された素晴らしい山である高尾山の魅力をもっと多くの外国人に知ってもらい、訪れてほしいと考えました。高尾山であれば、都心からも近く、半日ほどあれば気軽に訪れることができます。また、老若男女問わず幅広い世代の人が楽しめると思います。

そこで、私たちは高尾山の魅力を味わえる、体験型のイベントやツアーなどを企画したら良いと思いました。

例えば、高尾山にあるパワースポット巡りや、『高尾山こけし』の絵付け体験、高尾名物のとろろそばを実際に調理して食べるプランなど、日本文化を実際に体験できるツアーがあると良いのではないかと思います。

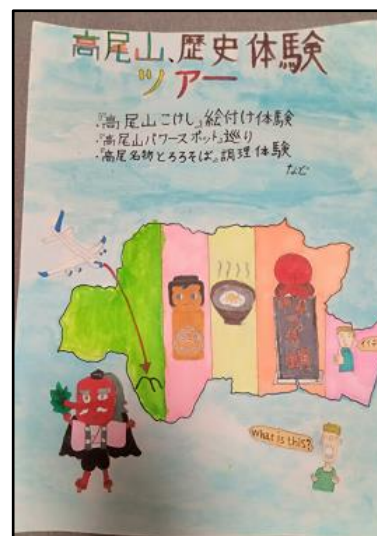
また、外国人が多く参加するツアーには英語が話せるガイドさんが必要です。そこで私たちのような学生がそのガイドをすることで、外国人と話す機会を設けることができると思います。

その様子は、「#Amazing View」「#Takao」「#Tokyo」「#Japan」などのハッシュタグをつけて、SNSを使って海外に発信します。

外国の人が日本の訪問先を決める際に、偶然見た高尾山の素晴らしい四季折々の様子や、日本文化を体験している様子を見て、旅行の目的地になるようにPRしていけたらと思いました。

これで4グループの発表を終わります。

(意見に合わせて、子ども企画委員が、体験例やポスター例などスライドを製作し、紹介)



第5グループ

【桑都物語のストーリーがどのように決まったか】

私たちのグループは「桑都物語のストーリーがどのようにして決まったか」というテーマについて意見をまとめました。

私たちの意見は、日本遺産を決める時に、子どもも関わるという意見です。なぜ、そう思ったのか。

まず、私たちは日本遺産を全然知りませんでした。そこで興味を持ったのが、日本遺産の決め方で、テーマを「桑都物語のストーリーがどのようにして決まったか」にしました。(日本遺産認定の際の写真のスライドで紹介)

そのことを知るために、市役所の日本遺産担当にインタビューをして聞いてみました。

すると、子どもは、日本遺産の決定に関わっていないことがわかりましたので、私たちは、日本遺産の決定に子どもも関わった方がいいと思いました。



子どもの関わり方は、2つあります。

1つ目が、学校で日本遺産について学ぶ機会があったらいいと思います。

2つ目は、自分の住んでいる地域の「遺産」を「地域遺産」として八王子が独自で認定するしくみがあったらいいと思います。それによって、日本遺産に子どもも興味を持てるようになると思います。

これで5グループの発表を終わります。